

2020年度データサイエンス特別プログラム「必修科目」のアンケート簡易分析

Q1:履修が決まった際、この授業には、どの程度の意欲と関心を持っていましたか。

	1	2	3
1) まったく意欲と関心はなかった	4%	5%	4%
2) あまり意欲と関心はなかった	17%	28%	17%
3) ある程度の意欲と関心があった	58%	55%	63%
4) 強い意欲と関心があった	21%	12%	16%

- 1 全科目 (2,329コマ33,092件の回答)
- 2 データサイエンス基礎 (18コマ867件の回答)
- 3 情報の科学 (25コマ559件の回答)

Q2:この授業の内容はどの程度理解できましたか。

	1	2	3
1) まったく理解できなかった	1%	1%	2%
2) あまり理解できなかった	9%	8%	20%
3) ある程度理解できた	66%	72%	70%
4) よく理解できた	24%	19%	8%

- 1 全科目 (2,329コマ33,092件の回答)
- 2 データサイエンス基礎 (18コマ867件の回答)
- 3 情報の科学 (25コマ559件の回答)

Q3:総合的にみて、この授業によって、科目に対する興味・関心が高まり、知識や技能が身についたことを実感しましたか。

	1	2	3
1) まったく実感していない	3%	2%	3%
2) あまり実感していない	12%	9%	14%
3) ある程度実感した	60%	70%	66%
4) とても実感した	26%	20%	18%

- 1 全科目 (2,329コマ33,092件の回答)
- 2 データサイエンス基礎 (18コマ867件の回答)
- 3 情報の科学 (25コマ559件の回答)

Q1

授業への関心は「データサイエンス基礎」は履修登録を要しない全学必修科目であるため低く出ている。「情報の科学」は「ある程度」以上の関心があることが伺えるが、本学学士課程在籍者の意欲・関心の上位科目ではないことが分かる。

Q2

理解度においては、両科目とも「4)よく理解できた」が低く出ている。「データサイエンス基礎」は「1)」及び「2)」の「理解できない者」の比率は少ないが「よく理解できた者」の比率も少ない。「情報の科学」においては、その傾向がより強く出ていることが考えられる。

Q3

科目に対する興味・関心の高まりを「Q2」の理解度と比して考えると、「全体」においては「90%」が内容を「ある程度以上」理解し、「86%」が「科目に対する興味・関心が高まり、知識や技能が身についた」ことを「ある程度以上」実感している。一方で、「情報の科学」においては「78%」がある程度以上理解し、「84%」が「科目に対する興味・関心が高まり、知識や技能が身についた」と回答しており、全体との逆転現象がみられる。これは、内容は難解であるが、その知識や技能が重要であることを履修者が実感していることが考えられる。

総合

科目に対する意欲や関心、理解度に関わらず、受講をとおして「科目に対する興味・関心が高まり、知識や技能が身についたことを実感」する傾向がうかがえるため「数理・データサイエンス・AI」に対する本学学士課程在籍者の潜在的ニーズは高いと考える。今後は理解のレベルを引き上げ「良く理解できた」者を増やすことで、より「数理・データサイエンス・AI」分野の興味・関心を喚起し、他のデータサイエンス科目への履修に繋げ、プログラムの履修者及び修了者の増加を図る必要がある。